

知多半島 摂食・嚥下機能 連絡票 (2015.11.14. version)

不明な部分は空欄または「不明」の記載で結構です。受け取った方は、状況に応じて適宜、変更、調整をお願いします
本連絡票は記載時の現状を記録するもので、患者様の食行動を制限するものではありません

記入日

施設・事業所名

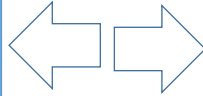
記入者

職種

施設・事業所名

記入者

職種



患者情報

氏名

○男 ○女

生年月日

年齢

身長

cm

体重

kg

摂食・嚥下に問題となる認知症 ○有 ○無

既往歴

誤嚥性肺炎の既往 ○有 ○無

脳血管障害の既往 ○有 ○無

栄養経路 ○経口 経腸 ○経鼻経管

経静脈 ○TPN

(併用可) ○胃ろう

○TPN (CVポート)

○腸ろう

○OPPN

経腸栄養

摂取熱量 kcal

投与栄養剤 ○医薬品 () ○食品 ()

栄養剤の形態 ○液体 ○半固形 ○その他 ()

投与方法 ○朝 時 () kcal: () ml/時間: 白湯 () ml

○昼 時 () kcal: () ml/時間: 白湯 () ml

○夜 時 () kcal: () ml/時間: 白湯 () ml

他投与 (塩など)

薬剤投与方法 ○簡易懸濁 () ○粉碎 () ○その他 ()

水分量 ○無 ○有 (ml)

今後の展望 ○変更可能性なし ○変更可能性あり (方向性)

食事環境

水分とろみ剤 ○不要 ○はちみつ状 ○ムース状 ○ゼリー状

○水100mlに対し () を (0.5・1・2・) g を使用

経口内服方法 ○水 ○ゼリー埋込 ○簡易懸濁 ○その他 ()

○トロミ ○食物混入 ○経管

口腔清掃状態 ○良好 ○要注意 ○不良 含みうがい ○可能 ○不可能

嚥下補助手技 ○なし ○あり () 義歯 ○使用 ○不適 ○不要

食事介助方法 ○自力 ○見守り ○一部介助 ○全介助

食事時姿勢保持 ○制限なし ○その他 ()

○要座位

○リクライニング (角度: 度)

食事回数 ○朝 ○昼 ○夜 ○要おやつ 1階食事時間目安 min

むせ ○あり ○不顕性 ○なし 口腔残留 ○あり ○なし

咽頭残留 ○あり ○なし ○不明 自己喀痰 ○可 ○不可

吸引 ○不要 ○要 (カテサイズ Fr)

特殊食器・治具 ○なし ○使用 ()

今後の展望 ○変更可能性なし ○変更可能性あり (方向性)

嚥下評価

評価方法 ○OVF ○VE ○その他 () 評価日

誤嚥 ○あり ○不顕性 ○なし

食形態調整効果 ○なし ○あり ()

今後の展望 ○経口摂取不可 ○嚥下機能改善 ○経管抜去 ○その他 ()

| | | |
|--|-------|-------------------------|
| | 重湯ゼリー | 粥の上澄みをとった、粒のないものを固めたゼリー |
| | ゼリー粥 | 全粥をゲル化剤で固めたゼリー状粥 |
| | ミキサー粥 | 五分粥をミキサーにかけた、粒のない粥 |
| | | 全粥をミキサーにかけた、粒のない粥 |
| | 重湯 | 粥の上澄みをとった、粒が全くのないもの |
| | 分粥 | 三分粥（重湯/粥：比率7/3） |
| | | 五分粥（重湯/粥：比率5/5） |
| | | 七分粥（重湯/粥：比率3/7） |
| | 全粥 | |
| | 軟飯 | |
| | 米飯 | |

コード 名称 嚥下調整食学会分類2013



| | | | | |
|--|------------|--|-----------------|----------|
| | 0j 嚥下訓練食品j | 少量すくって丸呑み可能 スライス状にすくうこと可能 離水が少ない | | ゼリー状 |
| | 0t 嚥下訓練食品t | 少量ずつ飲み込むことを想定 中間のトロミ、濃いトロミの どちらかが適している | | |
| | 1j 嚥下調整食1j | 0jに比べて表面にざらつきのある 離水に配慮したゼリー・プリン・ムース状の物 | 区分4 かまなくてよい | ムース状 |
| | 2-1 嚥下調整食2 | 均質でなめらかで、べたつかず、 まとまりやすい物 | 区分4 かまなくてよい | ペースト状 |
| | 2-2 嚥下調整食2 | 不均質な物も含み、べたつかず、 まとまりやすい物 | | |
| | 3 嚥下調整食3 | 形はあるが、押しつぶしが容易 | 区分3 舌でつぶせる | 舌でつぶせる |
| | 4 嚥下調整食4 | 箸やスプーンで切れる軟らかい物 | 区分2 歯ぐきでつぶせる | 歯ぐきでつぶせる |
| | | | 区分1 容易にかめる | 弱い力でかめる |